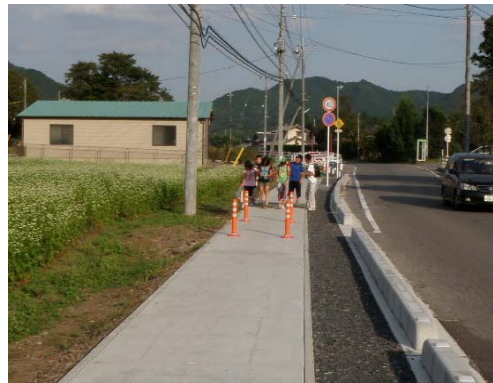


安全対策工事関係

黒川導水路工事の資機材等運搬に伴う歩行者の安全対策として、水路を利用した約1,100mの歩道工事です。



上板荷安全通路



下板荷安全通路

思川開発事業暴排協議会が発足

6月29日に佐藤信鹿沼市長をはじめ鹿沼警察署長、鹿沼土木事務所長などを顧問とした思川開発事業関連企業等暴力団等排除対策協議会(略称:思川開発事業暴排協議会)の設立総会を開催しました。

設立総会には、機構職員をはじめ現在当建設所の工事等を請け負っている企業23社から約100名の関係者が出席し、入会の意思表示がなされました。

思川開発事業は現在、トンネル工事などが本格化しており、大規模工事等を狙って不当介入する暴力団等の反社会的勢力を排除する決意を発注者及び受注者の双方が確認しました。



佐藤信鹿沼市長のご挨拶



設立総会の様子



『不当要求断固拒否』の垂れ幕

環境保全の取組みについて

思川開発建設所では、建設中・完成後にかかわらず、南摩ダム等の建設が周辺に与える影響を軽減するために様々な対策を行っております。今回は、思川開発建設所の環境への取組みを紹介します。

事業による影響を把握するためには、その影響のない状態を予め調べておく必要があります。そのため、昭和53年から水質、昭和55年から動植物などの調査を実施しています。

工事により生活環境へ与える影響の予測として、例えば、トラックが通行する時に発生するほこり(粉塵)、騒音などが法律などで設けられた規制値を超えることが予測された箇所には、防音壁、粉塵防止のための散水を行うなど環境保全に努めています。(写真1、2)

また、自然環境へ与える影響も予測しており、例えば、事業実施区域内で生息が確認されているオオタカの繁殖期には、巣の近くへの立ち入り禁止措置を実施しました。

更に、将来ダムが完成すると大きな貯水池が出現するなど、環境の変化が生じます。それによる影響を予測し、影響を受けると考えられる動植物については、移植などの保全対策を実施しています(植物の環境保全対策については、前号で紹介しました。)

このほか、工事関係者を含めた「環境保全協議会」を毎月開催したり、主として職員を対象とした「環境学習会」を必要に応じて開催するなど、環境に対する意識の向上にも努めています。(写真3)



散水車による水まき



防音壁



環境保全協議会でオオタカへの配慮事項を説明する環境課長

以上のように思川開発建設所では、豊かな生態系を維持できるよう様々な取組みを行っています。思川開発建設所では、これまでに実施してきた環境調査の結果を再整理し、事業の実施に伴う影響予測・評価・保全対策などをとりまとめた「思川開発事業における環境保全の取組み」を公表しております。詳しい内容は思川開発建設所のホームページをご覧ください。